

# 希望21

ありふれたことだけど  
かけがえのない  
希望がここにある

People's Hope for 21 century

平和・自治・共生

## No.42

1999年3月20日発行

1部 200円 年間購読 3000円

神奈川県相模原市上鶴間2973-3-110

TEL&FAX 042-740-4794

E-MAIL jah03412@niftyserve.or.jp

郵便振替:00100-1-97125 希望21



## 思いっきりオープンに！ 政策づくりにむけて

全国委員 石田伸子

■ 私たちは、地域の実情を共有し、現在の運動状況をどうみるか、さまざまな議論を継続してきました。今春の統一地方選への取り組みは、私たちの各地の取り組みを凝縮するものであり、これまでにない、さまざまな実践を展開しています。厳しい現実の政治状況や運動状況の壁を前に判断の難しさを実感したり、一歩前進と行った手応えを感じたり、さまざまな経験を蓄積しつつあります。それは、生き生きした現実へのアプローチであるがゆえに、すべて私たちの貴重な財産です。

そして今、私たちは「市民の絆」形成を通してどのような政治勢力として現実政治の転換を生み出しているのか、どのような政策を持って社会を作り変えようとしているのか、その内容が問われる状況を迎えています。

内容が漠然と「市民政治」というレベルにとどまっていれば、私たち自身がともすると既成政党のなかの「市民性の無さ」にいらだち、一方的に、無いことを批判し、要求するという傾向に陥りやすくなります。それは、「無い」ならば私たち自身で創り出しているという私たちの出発点とは相反するものです。私たちが

しっかりとビジョン内容を持つこと、それは、現状批判ではなく、変革のための挑戦です。

■ 現在、市民の政治的な動きには、たとえば虹と緑の500人リスト、緑の党を目指す動き、絆と社民党、というように、いくつかの実践が展開されていますが、私たちはそれらの違いを、全国的な政治潮流をつくりだしていくためのプロセス・方法の違いとしかとらえられずにいるのではないのでしょうか。そこに、やり方の「違い」という認識がなく、政策として、目指す社会のビジョンとして、何が違うのか、あるいは同じなのか、という本質的な問いに迫りえてはいません。違いを見出しては、小さく小さく「力」が分散していく現状を、私たちはよしとはしません。

「平和・自治・共生」が私たちのスローガンですが、これに異議を唱える人はまずいないでしょう。しかし、同じような抽象的なスローガンにとどまれば、プロセスの違いにしか関心がいかなくなるのも当然です。むしろ、それをどうやって実現しているかとするのかを、確信を持って語ることが私たちの説得力になっていきます。

同じところを見出して共同する、というシンプルな原則を確認し、私たちが目指すべき具体的な政治、社会のあり方を、共通のものとして対外的に提起する必要があります。

す。異なったプロセスを進んでいるもの同士でも、政策が一致すれば、そこを要に力をあわせ、目指すところへと、ともに向かっていくことができる根拠が生まれます。違うように見えるものをつなぎうるのは、未来の社会のイメージを構成する政策、それを実現しようとする価値であって、方法論のすりあわせではないはずです。

■ ドイツ社民党は「ベルリン綱領」をつくりあげるまでに十数年の歳月をかけ、転換をはかりましたが、その過程それ自体を外に向かって開き、各地で議論を喚起し、人々を巻き込みながら、自らの基盤を広げていくプロセスとしました。私たちにその内容が無いなら無いなりに、不十分を十分にしていく方法として、思いっきりオープンに、白日の下で議論を展開し、様々なレベルの議論と有機的に交わりあいながら作り上げていくというようなあり方も、必要なのではないのでしょうか。

それは、端的に言えば私たちの「理念の政策化」という作業です。もとより私たちは学者の集まりではありませんから、この作業を、いま取り組んでいる地域の具体的な運動の中から自覚的に作っていくしかありません。それは、理念のすばらしさを強調するためのものでも、他者との違いを強調するためのものでもありません。些細に見えることであっても、このことを実現するためなら私も一緒にできる、ともに力を出し合えるという具体的な目標を具体

的に提案していく作業です。それを私たちが率先して始めることです。

■ 選挙戦の中でも問われている福祉政策について、教育・障害者の問題について、情報公開や環境政策などについて、各地で具体的なテーマを決めて政策提言を形にしていくことです。

私たちは、人びとの力の統一をかかげていますが、どのような統一戦線を構想するのか、その内容が、地域での共同のしかた、選挙戦でのたたかい方などに実現されなければ、「誰とでも仲良く」というスローガンにしかなりません。その取り組みは、地域ごとの経験や、個人々人によって、具体的になればなるほど、多くの違いが明らかになるかもしれません。しかし、そうした多様な経験に裏打ちされた意見をぶつけ合う、というプロセスを経てはじめて、現実的な共同をつくりだすことができるだろうと思います。

目指すものがどこにあり、そのためのステップとしていま、何が必要なのか、それが実効性を持つためには共同の範囲をどこまでとることが必要なのか、可能なのか、さまざまな側面をリアルに考えつつ、私たちの目指す社会に向けて政策づくりに着手しましょう。いまある現実を変えるために、思いっきりオープンに議論を！

## 16歳の少女メリサへ

今村直

こころやさしいメリサよ  
夕闇のとばりが降り  
リマの空に星が輝く夜ごと  
故郷の母を想い  
”ママに会いたいと言って  
泣き崩れたメリサよ  
いま故郷のおかあさんも  
ロザリオの数珠をくりながら  
天国のメリサを慕い  
泣き伏しているよ  
人間と政治の不条理が交錯した  
悪夢の百二十七日  
でもふりかえってみるがいい  
シプリアーニ大司教のミサ 聖餐の秘蹟で  
聖日ごとに牢獄の公邸も  
神の祝福に満ちた  
浄福の時が与えられたのだ  
チャピン・デ・ワンタル作戦で  
爆音と火柱があがり  
公邸は戦場となり  
血の海と化した



\*ペルーの日本大使公邸を占拠した MRTA のメンバーのひとりにロザリオ (通称メリサ) という 16歳の少女がいました。

メリサのやわらかいからだ  
憎しみの標的となり  
宙に浮いて肉片と化した  
その瞬間  
聖母マリアのやさしい手が  
メリサの魂を抱き寄せ  
天国へと飛翔していったのを  
私は見て知っている  
風に舞うひとひらの花のように  
散っていったメリサよ  
アモーレの愛と  
バラの花の芳香につつまれた  
天国でおやすみなさい

一九九七年四月二九日記

この人に聞きたい!

# 小沢 福子さん

小沢福子さんは、北摂高槻生協という大阪府北部の小さな地域生協の職員理事。希望21としても応援している高槻市議の脇田憲一さんと共に地域で運動を続けてこられました。70年代には豊中市で市議も経験。4年前には“市議は脇田、府議は小沢”ということで府議に立候補。敗れたものの13,000票を獲得、善戦しました。

実は高槻には社民党衆議院議員の辻元清美さんが住んでいて、辻元さんは国政と地域とを結ぶパートナーとして、市議・府議を探していました。ところが高槻には無党派・市民派の市議が3名いて、社民党の議員はゼロ。今回社民党から市議候補を出しても、市民派の支持は得にくい状況でした。そこで白羽の矢がたったのが小沢さん。

そして政策協定を結んだうえで、小沢さんは社民党の公認候補として府議に立候補することを引き受けました。国政(辻元さん)と地域を結び、また社民党と無党派・市民派を結ぶという、決して簡単ではない役割を引き受けた小沢さん。お話を聞いてみました。

## \* 社民党公認で立候補されるわけですが

今まで色々思うことはあったけど、ちょっとでも一緒にやれることがあって、お互いの原則を尊重して信頼関係が結べるんだったら協同作業をしていこうと、やっと思えるようになった。だからこそ今回の選挙は社民党で出ることをOKしたわけ。これからはみんなと手を組んでちゃんとやろうとしている人とは一緒にやる。例えば(社民党衆議院議員の)辻元さんは現場に足をつくるために毎週(地元高槻・島本で)駅頭に立って情宣してるけど、これはエライことやと思うよ。そういうところに現場のしんどさをわかっている人間が反応するんとちがうかなあ。それが人が結びつく原動力になっているのではないかと思います。そういう人たちと一つの目的に向かって協同作業をすることはとても気持ちの良いことやし、地域のなかにしっかり根をおろしていきたい。これからも、どんな大きな問題であれ地域のなかで受けて立つと思う。例えばガイドラインにしても地域が動かなければ何もできない。となりのおっちゃんおばちゃんどう手をくむかが勝負どころやと思うねん。そのためには一人一人を大切に、ものすごく具体的になってくる。世の中変えようと思ったらそこを努力しないとだめ。一人の力は微々たるもんで、一緒にやる仲間が励ましあわんとできない。時には落ち込んでしまうこともあるんやから。今回、社民党が私たちと手を組むのは冒険やと思うけど、世の中に訴えかけていく大きなことで一致したから声かけてきたと思う。いったんいっしょにやろうと決めたんやからきちんとやっっていこうと思ってます。

## \* 市会・府会・国政選挙の違いは?

今まで市会・府会・国政選挙を経験してわかったことがあるんです。市会、府会、国政選挙では戦術が全然ちがうねん。同じことを言ってもあかん。市会は一人一人顔が見えるどろどろの関係になってくるけど、府会ではそれだけではなくて政策論争せんとあかん。国政ではもっとそうなる。やっぱり有権者の受けとめかたが全然ちがうねん。そ



れにあわせて戦術たてる力量が必要。実践のなかで身につけるしかない。市会であれば、一つの問題を主張しながら当選することもできる。府会では府が決定権を持つことについては方針をもたなくてはいけない。再開発問題とか。それを展開できんかったら聞えない。市民の反応の敏感さを感じる。大型プロジェクトは全部府レベル。補助金の関係でも国からおりるより府からおりる方が範囲が広い。より地域にとっては密接。府のレベルにこちら側のチエック機構をつくっていくことがとても大切だと思う。

## \* 今度の選挙で訴えていきたいことは何ですか

私は(豊中)市議の時にやり残したことがあるねん。それは財政構造にメスを入れること。でも予算書・決算書の見方がやっとわかったところに議席をなくしちゃって。市レベルまではわかるんだけど、府・国の補助金がどういう根拠でどんな形でおりにるんかは、府・国に味方の議員がいな

ければ調べられない。今度私が当選したら（高槻・島本で）全国に先駆けて市・府・国に市民派の議員がいることになる。そうになったら早急に財政構造の調査をやりたいなと思ってる。そこで問題になるのは、一部を除いて地方自治体の財政の書き方が単式簿記ということなんです。財政学者で複式簿記に書き換えるべきという意見もあるけどほとんどそうになってない。今は単式簿記やから国も府もこづかい帳やねん。地方・各省庁は予算を組んで執行すればよいただ、ということなんです。地方自治体が財産を何も持っていないときはそれでよかった。収支さえわかればよかった。でも今や一番問題になってくるのはランニングコストの問題でしょ。企業だったらバランスシートになって損益計算書と貸借対照表があるわけやろ。一部の都道府県ではやり始めているし、是非調査してやってみたいと思ってるわけ。

財政のなかでもう一つやりたいのは、3月議会で今年1年間の予算を決めるやろ。そしたら何回補正予算入るか。いったいこの金どっから出てきとんねん。補正予算この金何やと思うわけ。補正予算のからくりをきちんと説明せなあかんと思ってる。一つには企業法人税・市町村民税については各企業の会計が出てからしか決まらないわけやから、それだけで補正予算を組んでるんだったらわかる。でもそんな金額ではないよ。いわば隠し財源。これをウラで取りあひして、例えば「公民館建てることになった」とか言うわけ。私も以前は補正予算自体には目を付けてなくて、建物の建設とか道路工事についてそれは市民にとってプラスかどうかと言うようなことばかりに関心があった。でも、良く考えたらこの金どっから出てきとんねん言うことや。今までだったら議員が作るものについて反対とか賛成とかそういう議論ばかりになってたわけ。でも予算書の組み方にもっとメスを入れて市民が財政をチェックする力を付けなあかんと思う。それを説明してみんなに言っておけば後は市民の側から情報公開で調べられるやん。

市民運動の側から「建物を作ってほしい」と言ったときに行政の側が必ず「今年度の予算は3月議会で決定されてますからお金がありません」と言う。これに絶対負けたらあかん。カネはある。持ってんねんけど、3月議会で全額予算に組まなくても良いことになってるんやから。例えばある市ではこの4月から税金などで800億円入ってくるのが財務担当にはわかるわけ。だけど自治省からの内部通達で、そのうち一割ぐらいは隠し財源として持っててよいことになってるから、実際には720億円の予算書作っても問題にはならないわけ。確かにそうしても良いという理由はあります。というのは、その1年間に天変地異が起こらない可能性はなきにしもあらずでしょ。でも、そんなことは滅多にないこと。この隠し財源は必ず翌年3月までに使われるわけですから、誰かの懐に入るというわけではないんです。でも実際には、そのことを知っている人間が分捕り合戦をウラでやるわけ。9月議会に突然大型プロジェクトが入ったりするねん。「市民会館を建てることになりました」とか。この仕組みはなかなかわからなかった。財務のことをわからないと仕組みがわからな

い。3月にすでに見込みの隠し財源があるのに、翌年3月には税金が思ったより伸びたとか言って、知らん顔で決算がなされるんです。単式簿記やから財務を解明しようと思ったら徹底的に現場の財務調査をやるのが大事なんです。現場見たらわかるねん。一項目を徹底的に調べれば使われ方がわかる。現場の仕事の実態を見て類推すれば問題点がわかるんです。なんぼ調べても発言権がなかったらだめですが。

実際、予算のことを勉強してる議員はまだ少ないと思う。一部の官僚が情報を流して得をする人間がいるけど。財務のカラクリに目を付けてる議員は少ないのではないかと。

私は是非調査したいと思ってるんだけど。市民派で市町村から国政まで議員を出せればこちらにとって有利だし、その時に徹底的に調べあげなあかんねん。

### \* 今後どのようにして運動を広げていくのですか

今、一つの希望は定年退職した人などがすごく積極的に協力してくれる雰囲気が出てきて、以前とは違う状況になってきたことです。市民の中には技術・知識を持った人がいっぱいいるわけで、議員の仕事は、そういう市民のコーディネートをしながら協同作業をつくっていくことだと思うんです。市民の人が出した答えを吸い上げてより普遍化するのが役割かと思ってます。私だって生活して感じることは限られた条件のなかで感じることであって、一人だけの思いで普遍的な方針は出ない。一人でも多くの人に参画してもらってこそ普遍的な方針が出ると思うの。思いもかけないところからものすごい具体的な運動が出てきたりして。そういうことに希望を見いだしながらおもしろい運動をつくっていかうと思ってます。

### お話を聞いて

小沢さんは話し出したら止まらないし、その話は分かりやすく人を引きつける。でも、彼女が人を引きつける力は、実は小沢さんの話のテクニックではなくて、小沢さん自身の人柄だということが分かりました。若いときから一貫して地域と現場にこだわって運動してこられたその経験、蓄積が、小沢さんの人間的魅力になっていることが、お話の中からも十分感じることができました。今回は時期が時期なので、そのあたり十分触れられませんでした。選挙が終わったらゆっくり話を聞きたいな、と思いました。

## 許せぬゼネコン徳政令

### 銀行への税金7兆円投入で、ゼネコン借金棒引き

**銀行生き残り策  
ゼネコン倒産＝大量失業は回避できない**

七兆円（国民一人あたり約五万円）にのぼる銀行への公的資金投入。その一部が、ゼネコン救済に回っている。このからくりは以下のとおりだ。不良債権処理と称して銀行に投入される七兆円は、その名のとおり不良債権処理の為に使用されるのだが、この一部はいわば貸した金の取り立てをやめるということ。つまり、借りた側からすれば、借金の棒引き＝徳政令だ。

青木建設は、昨年11月、あさひ銀行・日本興業銀行などに総額約2000億円の債権放棄を要請した。マンション建設最大手の長谷工コーポレーションは大和銀・三井信託銀などに3942億円。フジタはさくら銀行などに1200億円。ゼネコン各社が要請した借金の棒引き額は判っているだけで現在一兆円を越えている。

これに対し銀行側も、要請の受け入れを次々と認めている。銀行が誰の借金を棒引きしようが関係ないのだが、この穴埋めを税金ですとなれば話は別だ。公的資金を糧にして金融システムの安定化などと言いながら、税金がゼネコンに流れる仕組みなのだ。

これに加えて、政府は銀行の税金も大幅にまけるという「支援」も行っている。国税庁は昨年6月1日法人税基本通達を「改正」した。この「改正」は債権放棄に対する無税償却の範囲を広げるといふもの。債権放棄した銀行が、これを国税庁に認めさせれば、この分の税金が免除されるというのだ。

法人課税の表面税率は現行46.36%なので、銀行が一兆円の借金棒引きをすれば、4600億円あまりの税金が免除される。これは銀行が税金からの資金投入とは別に政府から同額をもらうのと同じである。

### 「ゼネコン徳政令」の舞台裏

不良債権問題処理の一環として、金融機関が抱えるゼネコン関連の不良債権を無税償却させ、ゼネコンの財務体質を改善させるという「ゼネコン徳政令」

これは3月に予定されている銀行への公的資金注入が、その土壌となったのだが、手口は以下の通りだ。銀行への公的資金注入にあたって、金融監督庁は問題ゼネコン向け債権については、50%以上の引き当てが義務づけられる第三分類への移行をすすめた。そこで、銀行側も「引当金を積むよりも、債権放棄をおこなってバランスシートから消した方が得策」という銀行の勝手な理屈で、ゼネコンへの債権を放棄するというのだ。

**too big too fail 「潰すには大きすぎる」**

### 自民党とゼネコン

これには、土建業界とのもたれあいで政権を維持してきた自民党の強い意向がはたらいっている。自民党政府は、ゼネコン倒産を引き金に連鎖倒産が広がり、大量失業へと繋がるのを回避するためとの大義名分を掲げている。湯水のごとく金をつぎ込んだ公共事業を柱とするこれまでの景気対策が水泡に帰すという危機感もある。

このため、銀行への公的資金注入を糧に大型ゼネコンの倒産回避をもくろんだのだ。自党の影響力維持・拡大のために税金をばらまこうとする姿勢は、公明党の「商品券」と全く同じ発想だ。

### バブルに踊ったゼネコンの自業自得

ゼネコンは80年頃から、技術的にはほぼ同レベルになり、付加価値で競争することが難しくなってきたといわれている。そこで各社とも企画から総合開発まで一貫して手がけて付加価値を高めようという動きが出たのだ。このためどこも値上がする土地の先行取得に走り、土地を抱え込み、その土地がバブルがはじけたことによって不良資産化し、今重い負担になっているのだ。

ゼネコンは決算上では黒字決算を出しているが、資産の見直しをやると実際は土地の含み損が大きいことは言うまでもない。

先の見通しも真っ暗である。主力産業が生産拠点を海外に持っていったことなどにより、民間の設備投資が伸びない一方で、公共投資がどんどん削減され、公共工事中

心だった業者も民間工事にシフトしてきている。器が小さくなったなかで競争が激化し、工事単価が下がっているのだ。

有利子負債が依然高いなかで利幅が下がると借入利息の返済が大きな負担になる。

「表面上の数字とは裏腹に、もはや倒産状態の財務内容であることは間違いない。そのうえ本業の民間工事で利益が出なくなっているし、公共工事も減っている。つまり、本業の収益で債務を返済していくという構造がそもそも成り立たなくなっているのが現実だ」

(熊谷勝行・帝国データバンク情報部長)

## 「雇用確保」のウソ

### 労働者は切り捨てても銀行は残す

「さくら銀行」など幾つかの都銀では有価証券の含み損が数千億円規模といわれている。つまりゼネコン関連不良債権を処理しても銀行の膿が全て解消されるわけでは決してないのだ。

91年以降のバブル処理は、中小零細ゼネコン、地場ゼネコンはどんどん潰されていった。そして不動産も潰されていった。一方で、潰れてもおかしくない大手ゼネコンなどには、追い貸しが行われていた。銀行は、弱いものから切り捨て、大きいものは残してきたのだ。

そして今、経営実態に差がなくても日本国土開発のように切り捨てられるところと青木建設や長谷工コーポレーションのように救済される場所と明確に二分されている。しかし、救済に見込みはあるのか。

## メインバンクの支援スタンス

「救済」されるという青木建設。2000億円の借金が棒引きされても、なおグループで4500億円もの有利子負債が残っている。構造的な建設不況のなか、売上規模2000億円クラスの期間収益で返済していくのは至難の業である。

「そもそも銀行の債権放棄とは、手切れ金であり、縁切り宣言と見るべきである」との見方が有力である。ただ、すぐさま縁切りできるほどの余力が今の銀行に残っていないことで、結果として延命させているだけなのだ。

大手銀行にも不良ゼネコンを一気に処理するような体力はないため、結果としてゼネコンが生きながらえているだけなのだ。

フジタや熊谷組、佐藤工業などに対しては銀行はまだ無担保で貸し続けているが、今やメインバンク以外は危ないゼネコンから手を引き始めている。大方のゼネコンではメインバンクに借り入れが集中するという傾向が顕著になってきた。

さらに、民間企業や自治体が問題のゼネコンに工事を発注しない、あるいはサブコンが受注できないという状況が出ている。このためフジタ・熊谷組の受注は5～6割落ちている。

これまでの銀行主導型のゼネコン倒産という状況とは事態が全く異なっており、「銀行が支えようとしても、できないこともあり得る」と銀行自身が言い始めている。

さらに、メインバンクが外資や他の金融機関と提携したらゼネコンの倒産も増えるのは避けられまい。

## ゼネコン徳政令で大量失業は避けられるのか？

建設業の就業者のピークは97年8月で、700万人。この時の完全失業者が231万人。

公共事業の削減で98年7月末の建設業就業者は49万人減り651万人になった。一方、7月末の失業者は46万人増の270万人だから、建設就業者の減少分が全て完全失業者になっている。

「バブル崩壊後の公共投資を含めた経済対策で70兆円近い総事業費が注ぎ込まれたが、今となってはブラックホールに注ぎ込んだようなもの。むしろ、それがあつたために建設業者の数が増え、雇用数も増え、業界の規模が膨らんでしまい、その収縮が今きている。当時の財政のばらまき政策のつけが回ってきているといえる」(熊谷勝行・帝国データバンク情報部長)

この愚を再び繰り返そうというのが、公的資金七兆円投入なのだ。

我々への徳政令を要求しよう我々庶民に、バブルの恩恵は皆無だった。にもかかわらず、バブルに踊ったゼネコン・銀行の借金を肩代わりされられ続けている。会社更生法が徳政令といわれている。企業は、会社更生法を申請すればいつでも借金の棒引きができるのだ。

我々庶民に他人の借金を肩代わりする余裕はない。今こそ、庶民の借金棒引き＝徳政令を政府に要求しよう。

## 問題ゼネコンとそのメインバンク

- 藤和不動産＝東海銀行
- 長谷工コーポレーション＝大和銀行
- 佐藤工業＝第一勧銀
- ハザマ＝第一勧銀
- フジタ＝サクラ・東海銀行
- 熊谷組＝住友銀行
- 青木建設＝あさひ銀行

# コラム

## 社会民主主義とニューディールは同じ?!

池野さん(「通貨危機を生み出す世界経済システム」著者)主宰の学習会に参加しているのだが、前回、ニューディール政策についての話題になった。友人(F)と飲みながら、その話になったのだが、Fいわく「ニューディールと社会民主主義に本質的な差はない!」という。

「ニューディールは、資本主義体制維持のための政策」と思っている私は、いささか驚いた。しかし、累進課税の強化、一律賃上げ、金持ちから貧乏人への所得移転・労働者の完全雇用という基本では、確かに同じだ。

Fは続けて「マルクスとケインズは、資本主義分析についてほとんど同じ内容をもっていたのではないか」とも言う。浅薄な知識しかない私は、またまたエッ。

時代が違うとはいえ、一方は資本主義から「妖怪」の親玉といわれ、一方はその後半世紀に渡って資本主義の基本政策の祖となったご二人だ。この二人が資本主義と同じ見方・考え方をしていたと言われれば、やはり驚いた。私に彼の意見を評論する力はないが、資本主義と社会主義は相互に浸透し合っているとの解釈はしたくない(現実にもそういった側面は確かにあるにせよ)。Fにしてもそうだろう。いずれにしてもとてもおもしろい見方だと思った。

なぜなら、Fの問いは、「社会民主主義とは何か?」を言い当てていると思えるし、各人にとってマルクス主義とは何か?を問うものだと思うからだ。私の友人のなかにもヨーロッパ社会民主主義を学習し、「緑」へ傾斜し

ていく者は多い。特に「政策」「対案」を課題とする現場に身を置く友人にその傾向は強いように思われる。私にしても、地域で運動するときのスローガンは「福祉と環境」だ。

自分と社会に不満を持った二十の私にとって、資本主義を木っ端微塵に批判しきるマルクス主義は、とても魅力的だった。ある意味で生き方を変える理論だった。

いま、私、当面日本で必要なのは、市場主義に対抗するしっかりとした社会民主主義を根付かせることだと思っている。このことはあちこちで言っているし、確信もしている。

しかし、あくまで「当面」の、政策レベルの話でしかないとも思っている。現状ではベターな選択だとは思っているが、生き方が変わってしまうようなシロモノとは思っていない。

今の若い人が安穩と暮らしているとは思えないし、学校や社会に対し我々以上に根深い不信も持っているのだろう。しかし、はたして社会民主主義が、彼らの怒りとエネルギーをかき立て、生き方をがらっと変えてしまうようなシロモノなのだろう

うか?若い人にとっては、上品な「オトナ」の理屈でしかないような気がする。

Fとしたたか飲んだ帰り道、「造反有理」という懐かしい言葉が浮かんだ。今の自分と社会に不満を持ち、しつこく言い続けること。今はこれしかないかな。

希望・尼崎 山田洋一

## 仲間からの便り

みなさんきてください!

四月十六日(金)午後六時三十分から  
鳥山区民会館にて決起集会をひらきます。  
当日は、田英夫さん、福島瑞穂さん、岩崎駿  
介さん、保坂展人さんなど多数おいでいた  
けます。  
ぜひ皆さんお誘いあわせの上、ご参加くださ  
い。まっています!

(世田谷区

菅原かずゆき)

(鎌ヶ谷市 篠崎ふみのり)

みなさん、お元気ですか。  
いよいよ本番まで1ヶ月となりました。  
毎日、少しずつ個々面接をしたり、ビラを作  
たり、本番のスケジュールを計画したり、朝  
前で作ったり(このところ雨が多くてあまり  
できない)の生活です。  
手ごたえがあるのかかわからない。  
公選ハガキの作成が遅れていて、1ヶ月のう  
ちに2000枚処理しなくてはならない。  
これは少し痛手です。  
これからは、人々の関心も選挙に向いてきま  
すから、しゃべりが重要になってくるでし  
ょうね。私はこれが一番不得意ですが・・・。  
まあ、みなさん頑張りましょう。

## 編集後記

雨の中、加藤登紀子のコンサートに行きました。いっしょに行ったK氏は曲目の中に「旅立ちの朝」があったことに感動していました。わたし初めて聞いた「Revolution」という歌に心打たれました。その歌を紹介させていただきます。

### REVOLUTION

碧い海にかこまれた  
小さな国に生まれ  
降り注ぐ光のぬくもりの中で  
平和な時代に育った

愛をはばむ戦争もなく  
餓えて死ぬ人もいない  
捨てるほどのものに囲まれて  
ほんとに欲しいものが見えない

400年前の森を切り刻んで  
砂浜やかわや湖を  
コンクリートで固めて  
いきものたちを  
豊かさのいけにえにしていく

気づかないうちに何かが変わった  
いとしいはずのものたちを  
ふとした弾みで殺してしまえる  
そんな息子たちが今増えている

生きていることは愛することだと  
ほんとは分かっているのに  
自由なはずの誰もかれもが  
がんじがらめのとらわれ人なのか

La Revolution 夢ではなく  
今一人きりで心に決めた  
La Revolution 大事なこと  
体中で感じるために  
La Revolution 流されずに  
愛するものを抱きしめるために  
La Revolution 夢ではなく  
今確かに心に決めた  
La Revolution I

(千)

## 希望の21世紀宣言

私たちは、現在のモノ中心の社会を、人間が人間らしく生きることのできる社会へとつくり変えていくことをめざします。

人間らしい社会一人と人が平等に、ともに助け合って、人間が自然の一部としての本来の姿で生きることのできる社会—を実現することこそが、人々の希望です。私たちはそのために、あらゆる領域で民主主義を徹底し、民主主義の実現をはばむものに対してたたかいます。

私たちは、世界に戦争と大国主義の不平等をもたらす憲法改悪を許しません。9条の理念の実態を日本から作っていくことによって世界の平和と民主主義の実現に貢献していきます。国と国とは対等平等の関係にあり、人間らしく生きることの豊かさの尺度に、人々の在り方を人々が決め、どこの誰も本当に武力を必要としない国際社会の実現こそが、平和の実現です。

私たちは、地域から国の進路、世界の在り方を決定する政治的な力をつくっていきます。そのために、私たちの意志、知恵や力を結集し、互いの経験に学び合い、信頼を築き合いながら、自治の実現をめざします。何かに頼ることなく、広範な人々とともに、変革の力をつくり、その統一を推進することを自らの役割とします。

世界の現実を変えること—それは私たち自身の在り方、運動の在り方を変えることなくしては実現できません。私たちは自らを変え、人と人との関係を変えあうなかで、現実を変革していきます。本音を出し合い、あらゆる困難をともに克服し、成功や喜びを、そして失敗や悲しみをも共有し、助け合ってたたかひの輪を広げ、その中に新しい社会を準備していきます。

人間らしい社会の実現をめざし、世界の平和と民主主義を求める人々とともに、希望の実現に向けて進みます。

1部200円 定期購読をよろしくお願ひします！ 年間購読料3000円(送料込み)

郵便振替:00100-1-97125『希望の21世紀』

月刊 『希望の21世紀』 ●42号 1999年3月22日

発行 ●「希望の21世紀」全国委員会

編集 ●希望21三多摩

印刷 ●Jam Print

連絡先 ●希望21・三多摩

東京都日野市多摩平6-20公住219-5 三浦方

TEL&FAX 042-582-2407

●希望21・京都

京都市伏見区桃山南大島町1-4 桃山南団地39-304 吉田方

TEL&FAX 075-622-2580

●希望21・未来はみんなで作る隊

東京都世田谷区上祖師谷6-29-1 みやび荘205号 菅原方

TEL&FAX 03-3305-0300

●希望・大阪

大阪府門真市北巢本町17-7安井文化202 戸田方

TEL&FAX 0720-85-6491

きっと1人じゃない  
世界は変わる  
人びとの希望の  
21世紀へ

